

Denyo

環境報告書

2017

Environmental Report

デンヨー株式会社

目次

Contents

編集にあたって...p.3

マネジメント...p.4

社長メッセージ

環境基本理念

環境基本方針

環境管理体制

環境目標と実績

環境負荷の全体像

製品における環境配慮...p.10

環境性能の高い製品開発

生産面における環境配慮...p.12

地球温暖化防止

資源循環型社会の形成

化学物質の管理

トピックス...p.15

生産拠点における環境対策の状況

編集にあたって

Editorial Statement

情報開示体制

持続可能な社会の実現に向けた弊社の環境面における取り組みについてステークホルダーの皆様へ下記の媒体にて情報を開示しております。

【年次環境報告書】

<http://www.denyo.co.jp>



報告対象期間

2016年度(2016年4月～2017年3月)及び一部内容についてはその前後の期間。

発行時期

2017年10月

参考にしたガイドライン等

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

お問い合わせ先



デンヨー株式会社

〒103-8566

東京都中央区日本橋堀留町2-8-5

ホームページ <http://www.denyo.co.jp>

経営企画部 TEL : 03-6861-1111

FAX : 03-6861-1185

免責事項

本環境報告書には、将来についての予想及び見通しが含まれている場合もございます。これらは様々な要素の影響により、実際と異なる結果になることがあります。

マネジメント

Management

Contents

社長メッセージ	…p.5
環境基本理念	…p.6
環境基本方針	…p.6
環境管理体制	…p.7
環境目標と実績	…p.8
環境負荷の全体像	…p.9



マネジメント

Management

社長メッセージ



2015年9月に国連サミットで、「持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)が採択され、2016年11月には「パリ協定」が発効されました。この背景には、人間の活動に起因する温室効果ガスの排出が気候変動に影響を及ぼし、深刻な被害が発生していることから、世界中で対策が急務となっていることが挙げられます。私たちデンヨーグループもグローバルに事業を展開する企業として、環境問題に真剣に向き合い、環境に配慮した活動や製品の開発を積極的に進めていく責任があると考えております。

このような中、私どもの事業活動においては、省エネ等に配慮した設備の導入や3R活動・緑化活動など、CO₂と廃棄物削減のための取り組みを実施し、製品開発においても、ハイブリッド製品の開発のほか、CO₂排出量を削減する自動アイドルストップ機能や万一オイル漏れが発生した場合でも、外部への流出を極力抑えるエコベースを標準装備した製品の拡充に努めております。

今後も、デンヨーグループでは全社一丸となって、地球環境に深く配慮した事業活動を展開し、豊かな社会づくりに貢献してまいります。

また、現在当社は、ISO2015年版への移行手続きを行っております。皆様のご満足と信頼を目指し、品質保証体制の改善および環境側面における改善に取り組んでまいりますので、引き続き、ご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2017年10月

デンヨー株式会社
代表取締役社長

白鳥昌一

マネジメント

Management

環境基本理念

デンヨーは、パワーソース製品の提供を通じて、社会インフラの拡充等にグローバルに貢献すると共に、企業の社会的責任として環境保全を深く認識し、環境と調和した事業活動を積極的に推進します。



環境基本方針

1. 事業活動における、省資源・省エネルギーの推進、廃棄物の削減、臭気・騒音の低減等、健全な環境の維持向上を図ると共に、環境に配慮した製品の提供を推進し、汚染の予防に努めます。
2. 環境に関連する法規制、及び当社が同意するその他の要求事項を順守すると共に、関連する社会的要求を尊重します。
3. 環境保全に取り組むためのマネジメントシステムを構築し、その継続的な改善を図ると共に、環境目的及び目標を設定し、そのレビューを通じて環境パフォーマンスの向上に努めます。
4. 環境方針は文書化し、従業員及び当社のために働く人全員に周知すると共に、広く一般に開示します。

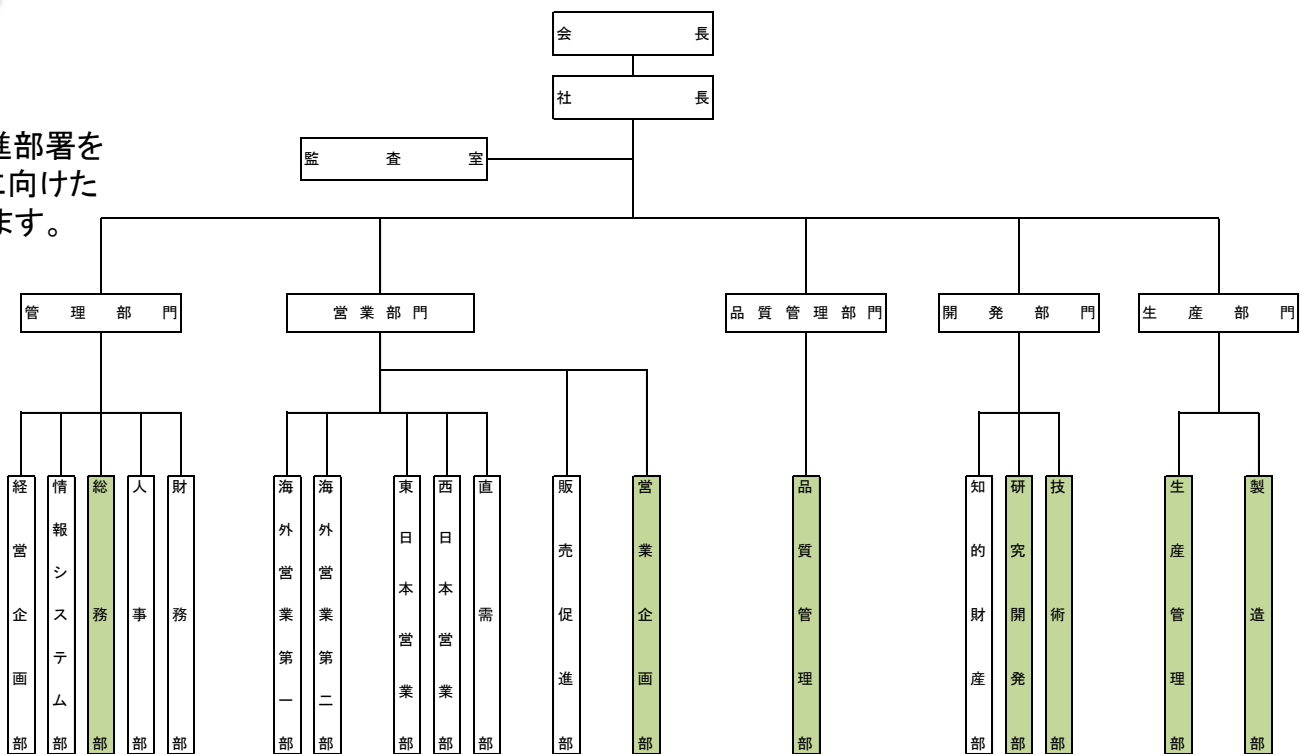
マネジメント Management

環境管理体制

● 推進体制

デンヨーでは、下記の推進部署を中心に環境負荷の低減に向けた事業活動を推進しております。

■ …推進部署



● ISO14001認証取得

デンヨーは、2006年10月19日付けで、環境マネジメントシステム (ISO14001:2004) の認証を取得しております。また、グループ会社のデンヨーベトナム社においてもISO9001、ISO14001を取得しております。省資源・省エネルギーの推進によるCO₂排出量抑制、さらには事業を通じて総合的な環境負荷の低減に向けた事業活動を行ってまいります。

マネジメント

Management

環境目標と実績

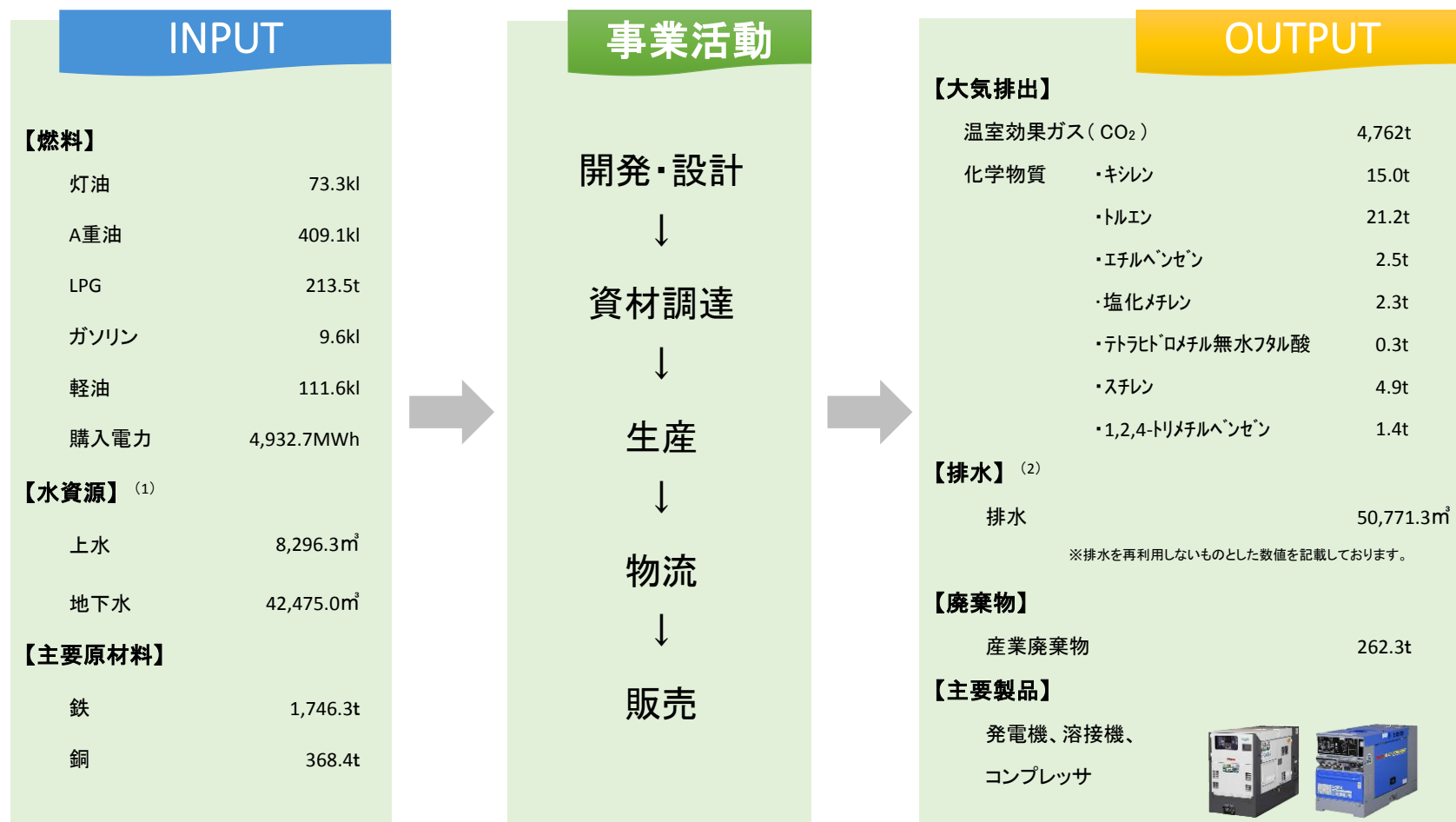
環境経営を実現するために、年度毎に目標を定めその評価を随時行っております。

項目	2016年度の目標	2016年度の実績	2017年度の目標
環境性能の高い製品の開発	「環境配慮型製品」を開発する。	自動アイドリングストップ機能搭載機やエコベース搭載機を拡充し、ハイブリッド発電装置や無騒音発電機などの新製品を開発。	「環境配慮型製品」を開発する。
資源循環型社会の形成	2016年度末までに「生産高当たりの産業廃棄物の量」を2011年度比15%以上削減する。	<ul style="list-style-type: none"> ・2011年度比排出量22.7%減 ・2011年度比生産高当たり23.6%減 	2017年度末までに「生産高当たりの産業廃棄物の量」を2016年度比1%以上低減する。
	2016年度末までに「生産高当たりの原油換算エネルギー使用量」を2011年度比30%以上削減する。	<ul style="list-style-type: none"> ・2011年度比使用量21.6%減 ・2011年度比生産高当たり22.8%減 	2017年度末までに「生産高当たりの原油換算エネルギー使用量」を2016年度比1.5%以上低減する。
社会貢献活動	「事業所周辺地域に隣接するグリーンベルト」の整備充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・福井工場では、南側進入路の山斜面の第1期植栽工事を実施したほか、雑草地帯の整備やプランターの増設、ゴーヤカーテンの設置などを行った。 ・滋賀分工場では、自然との調和を重点に工場敷地内の整備・清掃活動を実施。 ・開発研修センターでは、センター周辺の植栽および整備・清掃活動を実施。 	「事業所周辺地域に隣接するグリーンベルト」の整備充実を図る。

マネジメント Management

環境負荷の全体像

デンヨーでは事業活動の物質投入量を把握し、環境負荷低減に努めております。



注 (1)(2)の集計対象範囲は、福井工場・滋賀分工場となります。

(2016年度実績)

製品における 環境配慮

Eco-Friendly Products

Contents

環境性能の高い製品開発 ……p.11

静音発電機 Malie(マーリエ)

ハイブリッド発電装置



製品における環境配慮

Eco-Friendly Products

環境性能の高い製品開発

● 静音発電機 Malie(マーリエ)

Malie(マーリエ)※1は、近年厳しくなっていく騒音対策に対し、1dBでも静かな発電機の開発に挑み続けて完成した、騒音値わずか43dB※2の業界初の静音発電機です。

静音性を実現するために、騒音源であるエンジンファンをなくし、2個の電動ファンのみによる冷却としたほか、吸排気システムからの音に対し、限られたスペースで最大の消音効果を発揮させるために、マフラーとレゾネータを2連構造とするなど様々な工夫をしております。

こうして実現した騒音値43dBは静かな図書館内とほぼ同じくらいの音で使用者にストレスを感じさせません。当社は今後とも静音性能のみならず環境配慮型製品の開発を積極的に進めてまいります。

※1 Malie(マーリエ)とは、ハワイの言葉で「静かな」「穏やかな」を意味します。

※2 50Hz無負荷時7m四方向平均値



DCA-25MZ

● ハイブリッド発電装置

ハイブリッド発電装置は、バッテリーとディーゼルエンジンによる発電とを組み合わせた環境に配慮した製品です。

バッテリーが充電されている時にはバッテリーから交流電源を供給し、バッテリーの残量が少なくなると自動的にエンジンを始動させ、発電機からの供給に切り替えると同時にバッテリーを充電します。バッテリーの充電が完了するとエンジンを停止させ、再度バッテリーからの供給に切り替えます。効率よく発電した電気をバッテリーに蓄電して出力するという新しい発想により低燃費を実現しました。

従来のエンジン発電機と比較して約2倍の長時間連続運転を可能にしたほか、バッテリーからの発電時は無騒音運転が可能ですので夜間や住宅地でも安心してご使用いただけます。



HYB-2000E

生産面における 環境配慮

Eco-Friendly Production

Contents

地球温暖化防止 ……p.13

資源循環型社会の形成 ……p.13

化学物質の管理 ……p.14



生産面における環境配慮

Eco-Friendly Production

地球温暖化防止

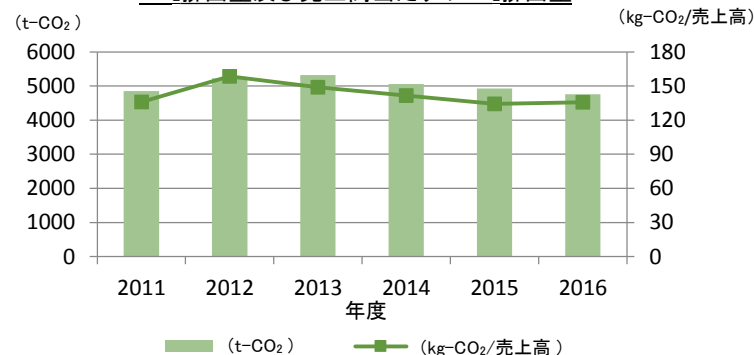
● CO₂排出削減

デンヨーでは、事業活動にともない排出されるCO₂の削減に取り組み、地球温暖化防止に努めております。2016年度のCO₂排出量は4,762tで、2011年度比1.8%減となりました。東日本大震災以降、依然としてCO₂排出量への換算係数が高い数値で推移しており、換算後の排出量は2011年度と比べ微減となっております。しかし、CO₂排出量換算前の実際の電気使用量は2011年度比20.8%、燃料等の使用量は18.3%と大幅に減少しております。2017年度もCO₂削減に向けた取り組みを継続して実施してまいります。

	電気 使用量 (千kWh)	燃料等 使用量 (GJ)	換算後の CO ₂ 排出量 (t)	売上高(百万円) 当たりのCO ₂ 排出量 (kg)
2016年度	4,932.7	34,088.2	4,762	135.6
2011年度	6,224.3	41,736.6	4,850	135.9
2011年度比	△ 20.8%	△ 18.3%	△ 1.8%	△ 0.2%

※売上高はデンヨー単体の売上高です。

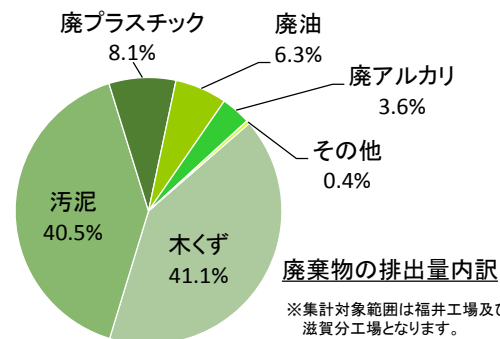
CO₂排出量及び売上高当たりのCO₂排出量



資源循環型社会の形成

● 廃棄物の削減

廃棄物については、関係諸法令に従い適切に管理及び処理を行っております。2016年度の産業廃棄物の排出量は約262tで、2011年度比生産高当たり23.6%減となりました。今後も安定的に一定量以上の廃棄物を削減できるよう、引き続き取り組んでまいります。



生産面における環境配慮

Eco-Friendly Production

化学物質の管理

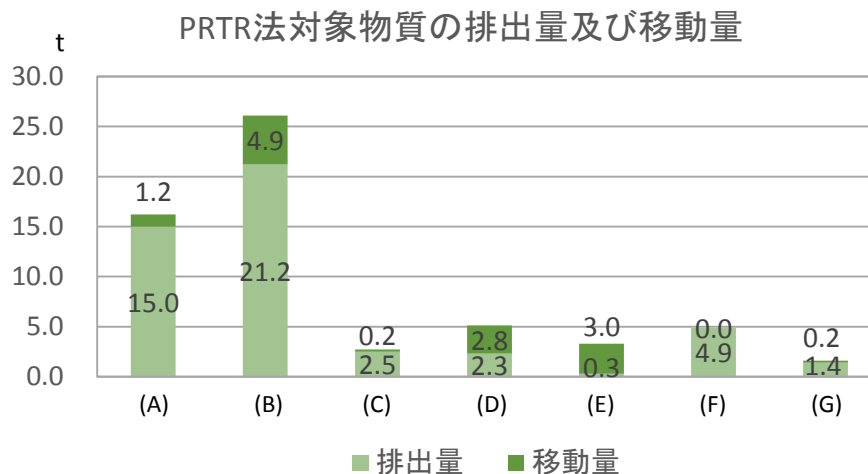
● PRTR対象化学物質の管理

PRTR法に基づき、PRTR対象化学物質の環境への排出量、廃棄物としての移動量を把握し、集計・公表しています。

※PRTR(Pollutant Release and Transfer Register : 化学物質排出移動量届出制度)とは、有害性のある多種多様な化学物質がどのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計・公表する仕組みです。

物質名	大気への 排出量	移動量
(A) キシレン	15.0	1.2
(B) トルエン	21.2	4.9
(C) エチルベンゼン	2.5	0.2
(D) 塩化メチレン	2.3	2.8
(E) テトラヒドロメチル 無水フタル酸	0.3	3.0
(F) スチレン	4.9	0.0
(G) 1,2,4-トリメチルベンゼン	1.4	0.2

(単位: t)



トピックス

Topics



Eco light bulb

Contents

生産拠点における環境対策の状況

鉄製パレットの導入による廃棄物の削減 …p.16

福井工場南側進入路の植栽工事 …p.16

ソーラーパネルの設置 …p.17



生産拠点における環境対策の状況

●鉄製パレットの導入による廃棄物の削減

製品などを輸送する際に使用する荷役台に、鉄製パレットを導入しました。

従来の木製パレットは、一度利用するだけで変形してしまうため使い捨てでしたが、鉄製パレットに変更したことで、何度も再利用することができ、廃材の排出量削減につながっております。

また、パレットを使用していない時には積み重ねて保管しておくことができるため、これまで以上にパレット置き場を綺麗に保つことができるようになりました。

今後も更なる廃棄物の削減と工場内の5S活動を積極的に進めてまいります。

●福井工場南側進入路の植栽工事

若狭町の町道から福井工場に入るための進入路脇の斜面に植栽工事を実施しました。

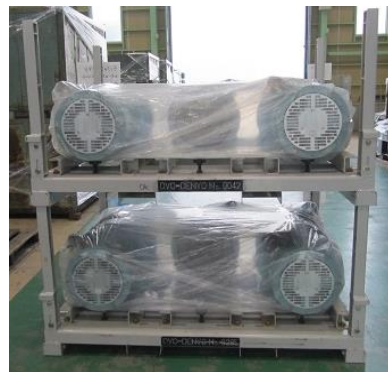
福井工場では自然との調和を目指し、工場周辺の環境整備を行っており、この度、植栽第一期工事が無事に終了いたしました。

今回の工事ではツツジやサツキを植栽し、来年以降に綺麗な花を咲かせてくれることを期待しています。

2017年度も植栽第二期工事を予定しており、今後も自然との調和を意識しながら、環境を整備してまいります。



木製パレット



鉄製パレット



ツツジやサツキが植えられた
進入路脇の斜面

トピックス

Topics

●ソーラーパネルの設置

アメリカにあるグループ会社 Denyo Manufacturing Corporation (デンヨー マニュファクチュアリング コーポレーション)では、事務棟の増改築を行うとともに、敷地内に30kWのソーラーパネルを設置いたしました。このソーラーパネルにより、事務棟の電力を全て賅うことができるだけでなく、余剰電力は工場エリアでも使用しております。

また、事務棟やカフェテリアでは大きな窓を多数設置したことで自然光を取り込むことができ、少ない電気でも明るく快適に過ごせる空間となりました。

デンヨーグループでは今後も、省エネ・省電力化を進め、電気使用量およびCO₂排出量の削減に力を入れてまいります。



DMCの新事務棟



30kWのソーラーパネル



自然光を取り込んだ研修室

●技術で明日を築く ————— デンヨー®
Denyo

 **デンヨー株式会社**

本 社：〒103-8566 東京都中央区日本橋堀留町2-8-5
TEL:03(6861)1111 FAX:03(6861)1181
ホームページ：http://www.denyo.co.jp/